

部活動再開

2020. 6. 8

本日、6月8日（月）より部活動が再開される。部活動は、4月17日（金）から中止となっていた。本校の場合で振り返ってみると、1年生が入学し、各部活動を見学する期間があり、部活動編成まで終えて中止となってしまった。1年生からすると、自分の所属する部活動が決まり、さあこれからというタイミングで中止となった。

今回の臨時休業期間は、2年生にも3年生にも大きな影響を与えているが、1年生にはさらに大きな影響が出ているように感じる。高校生としての生活リズムができる前に臨時休業となった。学習課題に家庭で取り組むにしても、中学校の学習との違いもあり、多少なりとも戸惑いがあったに違いない。また、高校に入り新たな友人関係ができつつあったところでの臨時休業であった。

1学年の先生方は、もちろん、このような状況を理解して、生徒一人一人に丁寧な個別面談、家庭との定期的、随時的な連絡、必要により家庭訪問の実施などを行ってくれた。学校再開後も、毎日毎日、一人一人の生徒のケアを行ってくれている。

部活動が始まることは、1年生にとっても喜ばしいことである。しかし、全面的に活動ができるかというところではない。感染症対策を行っての活動となるため、保健体育の授業と同様に制約もある。それでも、1年生にとって上級生とともに活動できる部活動の意義は大きい。徐々に徐々に自分の高校生活に部活動を組み込んでいき、生活のリズムをつくってほしい。新しい生活様式と同じように“慣れ”が大切である。

一方、3年生にとっては、部活動再開といっても三者三様である。目標とする大会やコンクールがなくなってしまったために、既に就職や進学に向けて動き出している生徒がいる。また、野球などのように代替の大会やコンクール等が開かれる部は、最後の大会やコンクールに向けての練習再開となる。あるいは、代替の大会はないが、ふんざりがつかず、まだまだ活動をしたい生徒もいるかもしれない。

代替の大会やコンクールが開かれるのは、3年生のことを考えてありがたいことではある。だが、ものごとにはタイミングというものがある。感覚的な話になるが、地区大会の場合では、7月開催が限界ではなからうか。8月になると、一気に気持ちの持ちようが変わってしまうように思う。スポーツ推薦等での大学進学などを考えている生徒は、8月開催でもモチベーションを保つことができるかもしれない。ただし、その場合でも県大会以上の大会開催が条件となる。

それぞれの部によって状況は異なっている。3年生に対する顧問の先生方からの働きかけも変わってくる。3年生一人一人の心情を慮（おもんばか）る教員としての感性が必要となる。一人一人へ向けての言葉が鍵となる。

生徒も教員も様々な思いを胸に、部活動の再開となる。生徒たちが何年か経った後、高校生活を振り返ったときに、少しでも先生方からかけられた言葉を思い出してくれればと思う。あるいは、言葉は思い出せなくとも、あのとき、先生方は自分たちのことを本気で考えてくれていたという記憶が残っていてくれればと願う。